

水田畦畔用除草剤

農業センター

1 取り上げた理由

水田畦畔用除草剤について検討した結果、従来剤と同等の実用性が認められたので参考資料とする。

2 参考資料

1) 薬剤名、主な特性及び使用方法

三共の草枯らし

a 有効成分：グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%

b 性状：淡黄色澄明水溶性液体

c 毒性：人畜毒性 普通物，魚毒性 A類

d 適用場所及び対象雑草名：水田畦畔 一年生雑草及び多年生雑草

e 使用方法

a) 使用時期及び回数：雑草生育期（草丈30cm以下）

ただし収穫14日前まで，使用回数2回以内

b) 使用量：10 a 当たり250～500ml 希釈水量100ℓ 少量散布25ℓ 一年生雑草対象
10 a 当たり500～1,000ml 希釈水量100ℓ 少量散布25ℓ 多年生雑草対象

c) 散布方法：水稻にはかからないように，雑草の茎葉全体に均一に散布する。
散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがある。
展着剤の加用の必要はない。少量散布は専用ノズルを用いる。

2) 対象地域

県下一円。

3 利活用の留意点

- 1) 水稻や他の農作物に薬液が付着すると激しい薬害が生ずるので，飛散防止カバーなどを使用する。
- 2) 処理後効果が発現するまでに2週間程度要するので，刈り取ったり再散布しない。
- 3) スギナには効果が劣る。

(問い合わせ先：農業センター水稻直播プロジェクトチーム 電話022-383-8123)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新資材による育苗及び成長調整剤並びに雑草防除に関する試験

平成8年度 農業センター

2) 参考データ

表-1 除草効果 (農業センター)

年度	処理時期	処理量	希釈水量	除草効果の大小
平成8	6月6日	25ml/a	2.5ℓ/a	小
	6月6日	25ml/a	10.0ℓ/a	小
	6月6日	50ml/a	2.5ℓ/a	中
	6月6日	50ml/a	10.0ℓ/a	中
	6月6日	100ml/a	2.5ℓ/a	大
	6月6日	100ml/a	10.0ℓ/a	大
比) ラント [®] アップ [®] 液剤				
	6月6日	50ml/a	10.0ℓ/a	中

注) 残草量 大: 11~20% 中: 21~40% 小: 41~60%

調査日: 7月21日

(参考) 参考価格 500ml 1,090円

3) 発表論文等

平成12年度宮城県除草剤使用基準に採用